



ニュースを教育・研究の視点から発信する OTEMON VIEW
**19世紀のアメリカ・コレラ大流行はどう描かれた
その時人類は？アメリカ文学からの警鐘**

追手門学院が OTEMON VIEW を開設

学校法人追手門学院(大阪市中央区、理事長：川原俊明)は大学公式HPに特設サイト

「OTEMON VIEW」を開設しています

<https://newsmedia.otemon.ac.jp/>

OTEMON VIEW とは

「ニュースの面白さは、見方次第。」をコンセプトに、日々移り変わる世の中の出来事を、追手門学院大学の教員らが教育・研究成果など専門的知見に基づいて読み解きます。

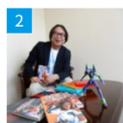


2020.06.15

社会とくらし

【前編】コロナ離婚急増!? シングルマザーの行き先は? 人気の母子シェアハウスとは? 3402Views

OTEMON VIEW編集部 | 地域創造学部
葛西 リサ



2020.08.03

こころから

「シン・エヴァンゲリオン劇場版」公開へ。精神科医研究者が考察! エヴァは悩める若者の象徴か!? 2438Views

OTEMON VIEW編集部 | 心理学部 清部 宏二



2021.01.27

社会とくらし

世界のトップ大学へ進学者を輩出した秘訣は「探究」にあり。立役者が語る探究学習の先にあるもの 2272Views

OTEMON VIEW編集部 | 探究科 池谷 陽平



2020.06.15

社会とくらし

【後編】コロナ離婚急増!? 新たな住宅の在り方と、母子家庭に必要な支援について考える。1996Views

OTEMON VIEW編集部 | 地域創造学部
葛西 リサ

OTEMON VIEW 人気記事ランキング

ニュースを教育・研究の視点から

新型コロナウイルスによる感染者・死者の数が世界で最も多いアメリカ。

アメリカも過去にコレラやスペイン風邪など多くの感染症を経験し、そのインパクトは文学作品にも表現されています。今回はアメリカ文学が専門の増崎恒国際教養学部准教授が、パンデミック化した19世紀コレラの状況を文学作品から復元し、現在へとつながる教訓を考えます。

(以下は主なポイント)

文学でみたアメリカの感染症の歴史

○移民と共に持ち込まれた感染症

○時代によって感染症のとらえ方も変化

19世紀アメリカのコレラの大流行

○感染者を「不名誉」とらえる風潮

○当時も隔離政策と手洗い励行が対策

文学作品に描かれるパンデミック

○社会的混乱が収まると作品が描かれる

○読者に求められる作品に隠されたメッセージを客観的に読み取る姿勢

記事本体 <https://newsmedia.otemon.ac.jp/1397>



19世紀末に描かれたコレラの風刺画

この資料の配付先：大阪科学・大学記者クラブ、北摂記者クラブ等

【発行元】

追手門学院 広報課

TEL : 072-641-9590 谷ノ内・仲西